

博士課程・博士論文を振りかえる

平成19年3月修了生 松島 公望

私は、博士課程に5年間在籍していました。この5年間を通して、今後、研究者としてやっていくための基礎を学ばせてもらいました。本稿では、「博士課程」、「博士論文」を振り返り、私自身が連合大学院で学んだことを述べさせていただきます。

1. 博士課程を振りかえる

(1) 修士論文を基に一深く反省することから始める

振り返って、「一年の計は元旦にあり」ではありませんが、「博士論文の計は入学時にあり」と思わずにはいられません。当然、途中で修正を繰り返すこととなりますが、入学時にどれだけ修士論文を深く反省し、その上でどれだけ具体的な研究計画を立てるかで、その後の博士論文の進み具合は大きく変わってくるように思います。私はこの時点で深く修士論文を反省せずに研究計画を立てたことにより、2年次～3年次にかけて全く先が見えず、前に進むことができない闇の時期を経験しました（この時期は真夜中によく近くの土手に行き、うろろう歩きながら、「私には博士論文が書けるのか…」と自問自答していました。自問自答しているうちに夜が明けてくる…そんな毎日を繰り返していました）。

(2) 博士課程の2本の柱―“投稿論文”と“調査”

修士論文を深く反省し、具体的な研究計画を立てた後、博士課程で取り組む大きな2本の柱は、多くの場合、“投稿論文”と“調査（もしくは実験）”であるように思います。この2つの柱をどのように組み立て、結果を出していくのかで“博士論文の成否”が決まっていくように思います。この両者がうまく重なり合っではじめて“博士論文の形”が具体的に見えてくるように思うのです。

私の場合、“調査”は比較的順調に進めることができたのですが、“投稿論文”で躓いてしまい、“博士論文の形”が全く見えないまま2年間で過ぎてしまいました。私自身、1年次の頃は、学会誌の傾向などをあまり考えず、「まあこんな感じかな…」程度で論文を投稿していました。結果は、当然、「不採択」、「不採択に限りなく近い修正再審査」でした。学会誌には、その学会その学会の風土や特性があります。研究者によって様々な意見はありますが、私は、学会の風土や

特性も考慮に入れながら投稿先を検討する必要があると強く感じています。特に、私のように「キリスト教に関わる日本人の宗教性発達」といったその学界で非常にマイナーなテーマの場合には、慎重に投稿先を検討する必要があるように思います。私自身も3年次からこのような観点から論文を投稿するようになり、3年次、4年次とそれぞれ結果を出すことができ、博士論文提出の条件をクリアし、4年次の最後には“博士論文の形”がはっきりと見えるようになりました。

その後は、5年次の5月に講座内予備審査会をクリアし、7月には博士論文の草稿を書き上げ、9月～10月の博士論文予備審査会、12月10日の論文提出、年明け1月の博士論文審査会を経て、平成19年3月に学位授与へと至ることができました。

2. 博士論文を振りかえる

(1) “広域科学としての教科教育学”であること

“広域科学としての教科教育学”であることが連合大学院の博士論文には求められていると思います。テーマによっては何の問題がないのですが、私のような「キリスト教に関わる日本人の宗教性発達」をテーマにするような場合には大きな壁として立ちはだかります。私の場合は、「キリスト教主義学校」、「青年期」、「援助行動」などをテーマに加えることによってこの問題を乗り越えました。

(2) 博士論文は1つの大きなストーリーである

博士論文は複数の研究が組み合わさって成り立っています。その複数の研究をただ並べるだけでは博士論文の体をなさず、必ず最初から最後まで1つの大きなストーリーとしてまとめる必要があるように思います。1つ1つの研究についてしっかりと完結していることが大前提ですが、それに加えて全体の構成の中でそれらの研究がどのように位置づけられて、1つの大きなストーリーとして成立しているのかを丹念に検討することが大変重要であると思います。

(3) 教員との関係

指導教員との関係は本当に重要だと思います。これは主指導教員、副指導教員のみならず、自分の研究に関係する全ての教員にあてはまると思います。先生方

とどのような関係を築いてきたのかについても博士論文審査の際に深く関わってきます。博士論文は日々の積み重ねの中で作られていくものだからこそ、その積み重ねの中には「日々の教員との関係・交流」も含まれているのだと思います。

(4) 博士論文がスタートである

良く言われていることですが、課程博士においては、「博士論文が研究者としてのスタートである」と、博士論文を書き終えてみて、より強く感じます。それは、博士論文を取り組む過程がそのまま「研究者としての基礎作り」になっているからだだと思います。

3. 結びに代えて

振り返って、「博士論文を書こう、書き上げよう」と心の底から覚悟を決めた時から全てが始まったように思います。この心の底から…というのが鍵になります。実は、この心の底からの覚悟がなかなかどうにも難しいように思います。

博士論文をまとめ上げるためには、多くの困難が立ちますが、心の底から「博士論文を書こう、書き上げよう」と覚悟を決めた時から全てが始まることをぜひ在学生のみなさんに最後にお伝えしたいと思います。